



特集

～第82回建設業講演会を開催しました～

2025年11月12日、北海道経済センター（札幌市中央区北1西2）8階Aホールにおいて、北海道大学教授 高野伸栄氏、国土交通省大臣官房審議官（不動産・建設経済局担当）藤田昌邦氏をお迎えし、「北海道建設業の現況と課題」、「最近の建設業をめぐる諸問題」をテーマとした講演会を開催しました。

皆様のおかげをもちまして、講演会は無事終了することができました。改めまして、ご来場の皆様には深く感謝申し上げます。

講演会当日の弊社社長の和泉からの主催者挨拶と講演会配付資料を一部編集して、以下のとおり掲載しますのでご参考としていただければ幸いです。

【第82回建設業講演会概要】

○日 時：2025年11月12日（水） 15:00～16:30

○場 所：北海道経済センター8階Aホール

○プログラム：

開会 主催者挨拶

（1）『北海道建設業の現況と課題』

講 師 高野 伸栄 氏

（2）『最近の建設業をめぐる諸問題』

講 師 藤田 昌邦 氏

○主 催：北海道建設業信用保証株式会社

後 援：北海道開発局

北海道

一般社団法人 北海道建設業協会

一般社団法人 北海道舗装事業協会



[【主催者挨拶文（PDFファイル 146KB）】](#)

[【講演会配布資料（1）（PDFファイル 850KB）】](#)

[【講演会配布資料（2）（PDFファイル 9,513KB）】](#)

※ 掲載資料は閲覧のみとし、転用はお控えいただきますようお願いいたします。



～Instagram でみる道内助成事業～

北海道建設業信用保証㈱は、職員有志で運営するInstagramアカウント「HCSインスタ部 (@hcs.instaclub)」にて、弊社の担い手確保助成事業のひとつである「現場見学会」「コンストラクション甲子園」の様子を取り上げました。

【現場見学会in中標津】



10月25日、中標津町内にて、町内の高校生や役場関係者、一般の方々を対象に開催されました。見学先の工事現場は、「中標津町農協事務所（新築）」（写真左）。現場見学のほかにも、建設機械の搭乗体験（写真中央）や建設業に関するDVD視聴（写真右）も実施され、建設業への学びを深めました。

【コンストラクション甲子園地区予選】



11月29日、全道9会場にてコンストラクション甲子園予選大会が開催されました。全124チームがエントリーし、どの地区も大いに盛り上がりを見せていました。各予選会の優勝チームは、1月24日にサッポロファクトリーアトリウムで開催される決勝戦にて、優勝賞品の沖縄旅行を懸けて熱戦を繰り広げます。

下記左「@hcs.instaclub」右「@construction_koshien」より、詳細をお届けしますのでお見逃しなく。
(写真は、左から石狩・後志・胆振・日高合同地区予選、渡島・檜山地区予選、上川地区予選の様子)



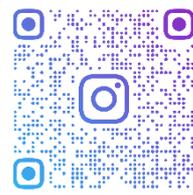
@HCS.INSTA CLUB

URL : <https://www.instagram.com/hcs.instaclub/>

左右の二次元コードを読み込んでいただくと、

お手持ちのスマートフォン・タブレットで詳しくご覧いただけます。

フォロー・いいね・コメントお待ちしております！



CONSTRUCTION_KOSHIEEN

海外調査報告

●10/5～10/17 にかけてカンボジア及びバングラデシュにて技能労働者送り出し国の調査が実施されました。今回は、調査に参加した当社社員の報告を掲載いたします。

●調査概要

我が国では建設技能労働者の減少が進み、人材確保が喫緊の課題となっている。一方、外国人労働者数は年々増加しており、建設業においても外国人労働者の役割は今後さらに重要になると考えられる。また、技能実習制度から育成就労制度への移行が予定されるなど、外国人労働者を取り巻く制度も転換期を迎えている。

こうした状況を踏まえ、技能労働者の送り出し国の現状を把握することを目的として、調査機関が実施する現地調査に参加し、今後、技能労働者の送り出し国として有望と考えられるカンボジア及びバングラデシュを訪問した。本調査では、送り出し機関の状況や教育訓練体制、就労を取り巻く環境等について現地で確認を行った。

●調査結果

カンボジアについては、日本に対する印象は概ね良好であり、日本で働くことに興味を持つ人材は一定数いるが、就労先選択において賃金水準が重要な要素となっていることが確認された。円安の影響もあり、日本と比較して賃金面で優位性のある韓国を選択する傾向があるとの声が聞かれた。また、日本での就労にあたっては日本語の習得が求められることから、言語面でのハードルを高く感じる人材も一定数存在しているようである。

送り出し体制については、韓国が政府主導で調整を行っているのに対し、日本は企業単位での対応が中心となっている点に違いが見られた。こうした制度の違いが、就労先選択に影響を与えている可能性もあると感じられた。一方で、人材の特性としては、真面目で素直な性格の人が多いとの評価が多く聞かれた。仏教国であることから、宗教上の制約が比較的少ない点も、受け入れ後の就労環境を考える上での特徴の一つと考えられる。

バングラデシュについても、日本に対する印象は概ね良好であり、日本で働くことに興味を持つ人材が一定数いることがうかがえた。一方で、日本語教育の環境については課題があることが確認された。現地では日本語を指導できる人材が限られており、日本人教師の派遣について日本国政府へ要請が行われている状況である。

人材の特性としては、環境の変化に対する柔軟性や適応力が高いとの評価が聞かれた。ただし近年は、事務職などホワ

イトカラー志向が高まりつつあり、建設分野への人材確保においては、職種選択の変化を踏まえた対応が求められると考えられる。報酬面や政府間の支援体制については、韓国との違いを指摘する声もあり、加えて中東諸国への就労を選択する人材も多いことから、国際的な人材獲得競争の中に置かれている状況がうかがえた。また、日本での就労を希望する人材の中でも勤務地については本州を希望する傾向が見られ、北海道が就労先として十分に認知されていない状況がうかがえた。

●現地での体験と気づき

現地調査の間には、街の様子や生活環境に触れる機会もあった。カンボジアでは、夜間でも比較的安心して街を歩くことができ、生活環境は想像していたよりも落ち着いた印象を受けた。私自身、現地での食事は大きな不安はなく、口に合っており、日本食を選択できる環境も整っていたことから、カンボジアの方が日本で生活する場合には比較的適応しやすいのではないかと感じられた。

一方、バングラデシュでは交通量が非常に多く、移動の際には注意が必要だと感じる場面があった。私自身は現地の食事について大きな支障はなかったものの、生活環境や交通事情の違いから、バングラデシュの方が日本で生活する場合には戸惑うことも想定される。こうした点を踏まえると、受け入れ後には生活面や安全面に関する丁寧な説明や、継続的なフォローが重要になると考えられる。

これらの体験を通じて、教育体制や制度といった枠組みだけでなく、実際の生活環境を含めて対応することが重要であると感じた。

●まとめ

今回、調査機関が実施する技能労働者送り出し国の現地調査に参加する機会を得たことで、資料だけでは把握しきれない現地の状況を知ることができた。カンボジア及びバングラデシュの両国において、教育体制や送り出しの仕組み、就労を取り巻く環境について現地で確認を行う中で、外国人労働者として一括りにするのではなく、国ごとの事情や働く人たちの考え方に目を向けた対応も重要であると感じた。

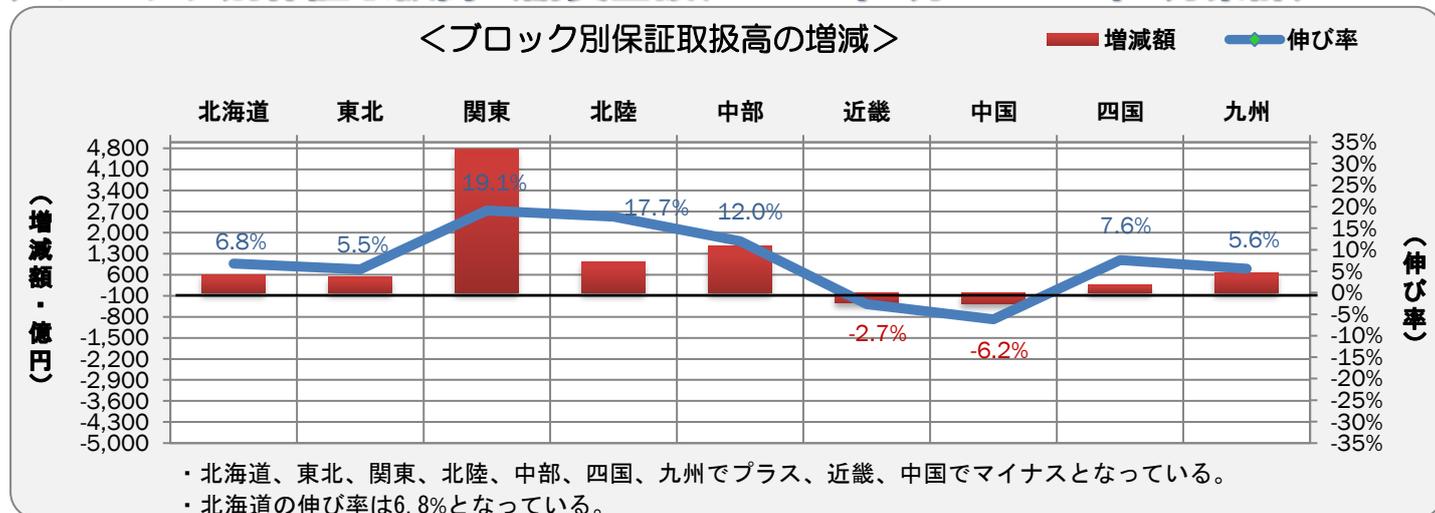




一目でわかる建設業データ

数字でみる公共工事

◇ブロック別保証取扱高（請負金額、2025年4月～2025年9月累計）



○請負金額9月累計額（3保証事業会社調べ）

（金額単位：百万円）

	請負金額	構成比	前年同期比較	
			増減額	伸び率
北海道	936,181	9.0%	59,197	6.8%
東北	994,735	9.5%	51,522	5.5%
関東	2,965,693	28.4%	476,149	19.1%
北陸	691,619	6.6%	103,954	17.7%
中部	1,454,701	13.9%	155,419	12.0%
近畿	1,237,676	11.8%	-33,992	-2.7%
中国	564,796	5.4%	-37,239	-6.2%
四国	375,093	3.6%	26,393	7.6%
九州	1,239,328	11.8%	65,742	5.6%
全国	10,459,827	100.0%	867,146	9.0%

北海道の建設業景況調査（2025年度第2回・7月～9月）

◇調査の概要

＜調査目的＞

北海道の建設企業の経営動向調査を行い、建設業のおかれている状況を総合的に迅速かつ的確に把握することを目的としています。

＜調査対象＞

当社と取引関係にある建設企業の中から、地区別、業種別、規模別の分布状況を考慮して、建設業の経営動向を反映するに足りると認められる企業を対象としています。

2025年度第2回の回答企業数は235社（調査対象247社、有効回答率95.1%）です。

業種別	回答企業数	完工高別	回答企業数
土木	119	3億円未満	31
建築	23	10億円未満	61
土木・建築	62	30億円未満	96
設備	31	30億円以上	47
合計	235	合計	235

＜B.S.I.とは＞

この建設業景況調査は、景気等に関して個々の建設企業の意識調査を行ったものです。この意識調査の結果を数値化して表したものが、B.S.I.（ビジネス・サーベイ・インデックス＝景況判断指数）です。

＜B.S.I.の求め方＞

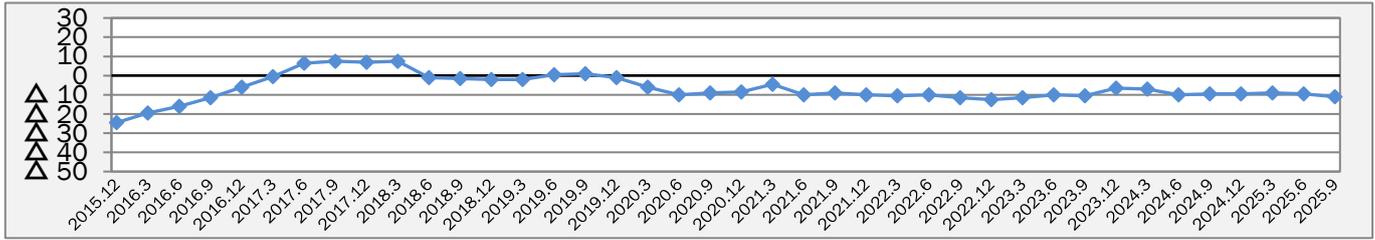
景況調査の集計結果から、以下の方法によりB.S.I.が求められます。

$$B.S.I. = ([\text{良い} \cdot \text{やや良い}] \text{と回答した企業割合} - [\text{悪い} \cdot \text{やや悪い}] \text{と回答した企業割合}) \times 1/2$$

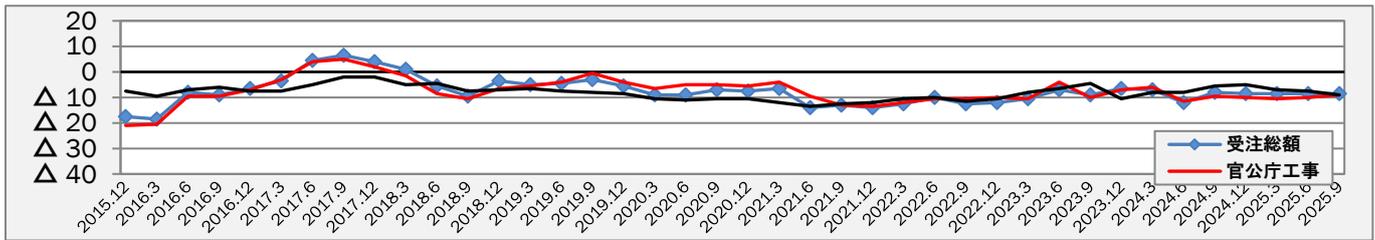


◇B.S.I. (ビジネス・サーバインデックス=景況判断指数) の推移

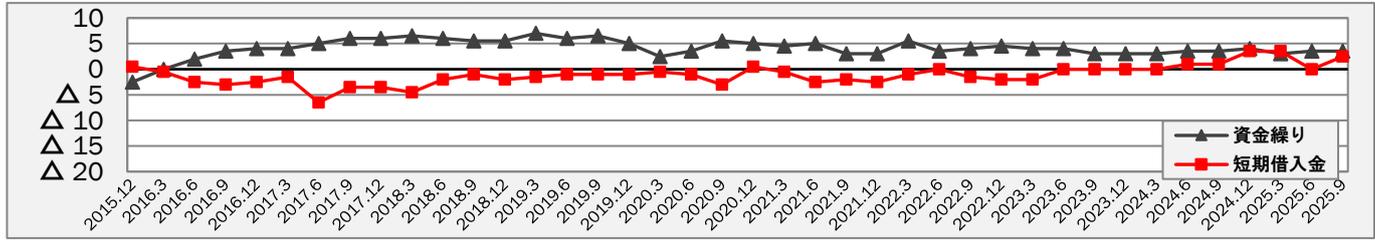
○地元建設業界の景気 (B. S. I. 季節調整済)



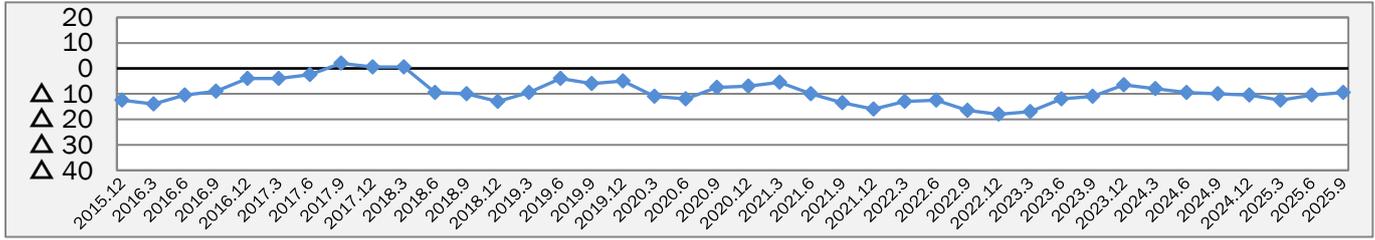
○受注 (B. S. I. 季節調整済)



○資金繰り・短期借入金 (B. S. I. 季節調整済)



○収益 (B. S. I. 季節調整済)



◇建設関連政策の動向

10月21日 高市内閣成立

自民党の高市早苗総裁は21日、第104代首相に指名された。女性の首相就任は初めて。

12月12日 改正建設業法・入契法全面施行

著しく低い労務費の見積もり・契約を禁止する措置が発効。「労務費に関する基準(標準労務費)」をベースとした価格交渉が求められることとなった。

12月16日 2025年度補正予算成立

補正予算に盛り込まれた公共事業費は2兆6,148億円と前年度を11.2%上回った。国土強靱化実施中期計画の初年度分公共事業費には1兆5,500億円が充てられた。

12月26日 2026年度予算案成立

一般会計の歳出総額は122兆3,092億円。前年から7兆円以上増加し2年連続で過去最大を更新した。公共事業関係費は前年当初予算から220億円増の6兆1,078億円ではほぼ横ばいとなった。

新年を迎え世界の動きが目まぐるしい。ベネズエラ大統領の拘束、イランの反政府デモ、グリーンランドの領有問題等々。こうした動きの背景には石油やレアアース(希土類)などの資源があるとされており、資源の権益を巡る観点から解説する報道も多い。

AIの進化とともに半導体製造技術や巨大データセンターの存在が重要視され、エネルギーや希土類・銅などそれらを支える資源の獲得を巡り様々な軋轢が生じているのだとも思う。加えて世界的なDX化の進展の中で年々その重要性を増している資源が「淡水」であろう。半導体製造には大量の「超純水」が必要で、データセンターの冷却にも大量の水が必要。また希土類や銅の精錬にも大量の淡水を要する。こうした施設の設置は水の制約の影響を大きく受けることになる。

資源を巡る世界的な動きは、今後我が国の中でも一人当たりの水資源賦存量が突出して多い北海道に様々な影響を与えることになるのではないかと。アメリカではテキサス州などIT先進州の地下水の水位が年々低下していると言われ、インドでもデカン高原中部の地下水賦存量が同様の状況にあると言われている。

北海道の淡水は、DX化を支える資源として今後ますますその貴重性を高めると思うが、同時に淡水は人々の生活や食料生産にとっても重要な資源であり、かつ自然界を循環するものだ。水を巡るインフラの整備は21世紀の北海道にとって、極めて重要でかけがえのない貴重な資本投資なのだと思う。(H.S)

惚れちゃうほどに、カッコイイ仲間たちがいる。

HBC

はれのしごと

HARE N ● SHIG ● T ●

2026

1.9^{FR}_I START

毎週金曜 深夜0:43 → 0:48

「HBC天気予報」内

ここが、
おれたちの晴れ舞台。



企画 ピーアールセンター /制作協力 フラッグ /制作著作 HBC北海道放送
協力 札幌市

北海道の建設現場が舞台！！ 業界初!?!の~~タテ~~型ショートドラマ！ **建**

放送済みの回を
SNSで好評配信中！

CIC公式Youtubeチャンネルはこちら👍



何が業界初？

- 💡 タテ型ドラマをヨコ型テレビで放送！テレビ業界初（？）「天気予報」番組内でドラマを放送します！
- 💡 北海道の建設業界の魅力を発信する新メディア「CIC」が発足！第一弾事業としてドラマに特別協賛！

はれのしごと

HARE N ● SHIG ● T ●

今ここにない 未来を創造する。

